



弧を描き、夜を舞う

岬の大蛇へ挑戦

本市の3大イベントの1つである「都井岬火まつり」。
国の天然記念物に指定されている「岬馬」が生息する都井岬が祭りの舞台となります。
昔、人々を苦しめた大蛇を衛徳坊というお坊さんが、火攻めで退治したという伝説を再現した祭り、その偉業をたたえとともに、五穀豊穡を願うものとして現在も大切に守り継がれています。

今年は8月23日に「第59回都井岬火まつり」が開催。会場には市内外から多くの来場者が訪れました。市内の園児や団体らによる太鼓の演奏やダンスなどのステージイベント時はたくさんの観客が集まり大盛り上がりとなりました。

日が暮れると、岬の夜は静寂に包まれ一変。都井白太鼓踊りで幻想的な空気が漂い、その後、勢子がたいまつを持って入場すると、会場内の熱気はピークに。

「トントコトッテイトクボウヤ」とうとう討ち取った、衛徳坊」の掛け声とともに、高さ約30メートル先の大蛇の口に見立てたツトに向けて、勢子が投げた燃えるたいまつが夜空を大きく舞いました。今年は福島高等学校の生徒も勢子として参加しました。

約30分の挑戦の末、無事ツトに入ると会場は歓声に包まれ、力尽きた大蛇のように柱松が倒れると、夏の夜空を大輪の花火が美しく彩りました。

